

愛着のある梅田川。2年にわたり協議会を開き、住民とも折衝し関心を持たれた。

水源探し、山々の調査を行ったこと。平成11年1月23日の「梅田川まるかじり」の行事には、予定数を越えた盛大な行事だった。新治町の自治会長仲丸平八氏を始め、地元のひとりとして感慨無類であった。

新治小学校の伊達校長（会長）、市区関係職員他、関係者に厚くお礼申し上げます。また、新治小学校の上流の水路でも工事が着工されておりますので、又一重に皆様のご協力をお願いする次第です。

新治町 芦垣 松平



号外「梅田川をまるかじり！」の回覧では流域の自治会の皆様にご協力をいただきありがとうございます。新聞編集委員会はメンバーは少ないのですが（ので？）、まとまりがよく、話はトントンと決まっています。会議が終わった後、飲みに行き、宮本氏の川談議を聞くなど、家に着くのが翌日のこともありました。もう2～3人メンバーが増えるといいですね。（五十嵐）

ワークショップも一段落、ということで、新たに編集委員を募り、参加しました。新たなメンバーで再出発しました。よろしく願います。日々の仕事に追いまくられながらの記事集め、結構大変だ。むむむでも、「梅田川まるかじり」のイベントは、私が出しっぺでした。ほんとに楽しかったと思います。みんなのすごいパワーを感じました。（宮本）

特集で取りあげた「梅田川をまるかじり」イベントいかがでしたか。生き物調査では、遠巻きに見る子、水槽から離れようとしない子など色々ですが、水槽に手を入れて魚をつかみはじめたのは女の子。これからも梅田川の生物好きでいてくださいな。（松林）

梅田川・水辺の楽校新聞について

- 梅田川水辺の楽校新聞は梅田川水辺の楽校協議会が発行する新聞です。
- 協議会は梅田川をフィールドとした子どもたちの遊びや地域の方々の体験学習の「場づくり」「使い方」「維持管理」等について話し合う場です。
- 本号で紹介した協議会のプロジェクト活動へ参加したい方、新聞を読んでのご感想等は事務局までお寄せください。

●水辺の楽校協議会参加団体

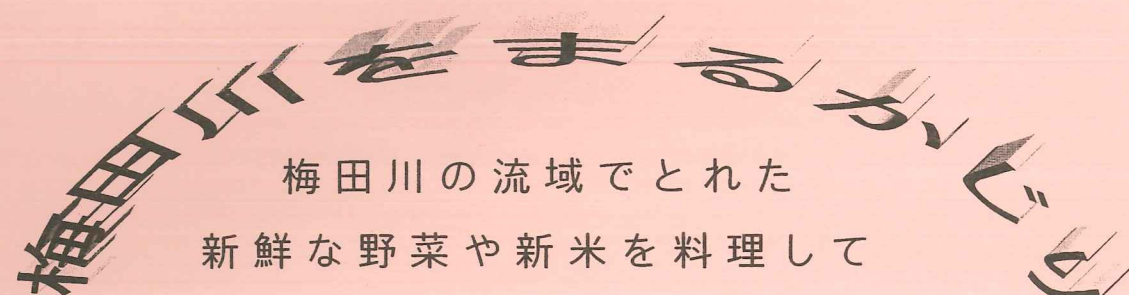
- 杉沢堰利用組合 新治町自治会 三保町自治会
- 杉沢自治会 フォレストヒルズ三保自治会
- 十日市場中学校 三保小学校 新治小学校
- 新治養護学校 各学校PTA
- 梅田川を楽しむ会 鶴見川流域ネットワーク
- 梅田川・川づくりワークショップ参加者 等

水辺の楽校新聞 第6号 / 梅田川・水辺の楽校協議会発行
事務局 横浜市下水道局河川部 TEL045-671-2859 FAX045-651-0715

梅田川水辺の楽校新聞

第6号

発行日 1999/03/10
発行 梅田川・水辺の楽校新聞編集部
事務局 横浜市河川計画課



梅田川の流域でとれた
新鮮な野菜や新米を料理して
食べました 昔遊びもやりました

“梅田川をまるかじり”

遊びプロジェクト 代表 羽中田 真弓

■1999.01.23晴れ！！
梅田川流域の魅力をより多くの人に知っていただく機会をつくろうと、杉沢堰でせき止めた梅田川の水で作られた新米を炊き、谷戸の畑で作られた野菜で「谷戸なべ」をみんなで料理することを企画しました。その中に「昔の遊び」として竹とんぼ、剣玉、和風、どんぐりごまづくりを企画、指導していただく方は新治在住の方をお願いしました。梅田川をたくさんの人に知っていただくとうと「ショートウオーキング」。川の中の生き物調査観察と、梅田川の自然を大切にという気持ちからゴミひろいも行うことにしました。

■調理はまた楽しい
私は調理の担当でした。流域でとれたびっくりするような大きな大根、ゴボウ、人参、さといも、ネギ。野菜そ

れぞれの味、香りを「谷戸なべ」でたのしみました。地元の自治会の奥様がユズの香りいっぱいの自家製白菜漬けを持って、指導に来てくださいました。新米をまきで火を焚き大きな釜で炊きました。出来上がりをドキドキしながら待っていると、炊きあがったごはんは懐かしいおこげができて調理コーナーはあたたかいカゼが流れました。「谷戸なべ」の出来も上々、青空の下、梅田川ののんびりした流れ、みんなで食べる昼食は自然のおいしさを感じました。冬のあたたかい一日。あっという間に過ぎ、多数の人々の参加、地元の人たちのあたたかい気持ちに心がふれあえた良い日でした。参加していただいた皆様、協力していただいた皆様に心からお礼申し上げます。



《梅田川まるかじり》
流域のショートウォーク

梅田川水辺の楽校協議会
梅田川流域環境マップ担当
近藤 卓爾

朝から快晴，温かい素晴らしい一日になりそうである。スタッフの集合時間の8時30分会場に到着したが，早い人がいて既にカマド，薪，受付用テーブルなどの準備は調っている。受付の細々とした準備を済ませ雑談をしながら参加者の来場を待つ，9時30分を過ぎた頃からポツポツと参加者が集まりだした。「昔の遊び」，「調理」，「ショートウォーク」と参加者の希望するグループ毎に受付を始めたが一番人気は「昔の遊び」で列が出来て「ショートウォーク」へは全く人が集まらない。そこでスタッフ一同「今日はお天気も良いし歩きませんか，気持ちがいいですよ。」と呼び掛けるが状況は変わらない。40名を予定していた「昔の遊び」が60名程になったところで受付を締め切った。ここからスタッフは大活躍「子供が小さいから」と渋るお母さん達を口説き落とし約40名の「ショートウォーク」チームが誕生した。代表の挨拶等が終わりチーム毎に別れ，今日の「ショートウォーク」の目的，アンケートのお願い，散策コースの簡単な説明の後10時20分頃口説き落とされて歩くハメになった子ども，お父さん，お母さん達を引き連れて旭谷戸の奥をめざして出発！先頭を歩くのは○十年前の健脚（小生）シンガリは大澤さん他のスタッフは間に入りゆったりとしたペースで歩く。温かく絶好の散策日和である。幼児は親と一緒に大きめの子供たちは列の前になり後になりと走り廻りながら進む。途中以前旭谷戸で行った生物調査の説明などしながら40分程で谷戸の奥に3～4枚残っている田の端に到着。ここでは15分程休憩をしたが休憩の間子供達はほぼ全員田より3～4m小高くなっている雑木林（ナラ，クヌギ林）へ入り登ったり下ったり走り廻って実に楽しそうに遊んだ。一人二人はころげて落ちてよい様な傾斜地であり多少ハラハラしながら見ていたがお父さん，お母さんが一人として「危ないから止めなさい！」と止めなかったのには感心もし大きな拍手を送りたい。子供達は

はこのような遊びの体験の内からいろいろなことを学ぶのである。休憩の後一山越えて隣の大谷戸へ入り杉沢関を経て谷戸鍋の香り漂う会場へ11時50分全員無事帰還した。この三保新治の野山谷は横浜に残る数少ない緑の宝庫であり，3月後半から5月にかけてコブシ，スミレ，一輪草，二輪草，キンラン，ギンラン等々の自然の草花も数多く見られ，運が良ければエビネ，クマガイソウなども見られるのではないかと期待を持たせる。今回のイベントに参加した人たちの内から一人でも多くのウォークファンが増えて，三保新治の山谷で「コンニチハ」と挨拶する日が来ることを期待しております。



ショートウォーク実施風景

“梅田川で遊ぶ”

山口 文世（新治小学校）

川で遊ぶというと，水を使うイメージがあるが，季節は冬。しかも，作って遊ぶとなるといったい何をすればいいのか，少々悩む。「時はお正月だから，お正月遊びにしよう。材料はこの地域でとれる『竹』があるから。」もう一つの心配は，当日の天気だったが，1月23日は暖かな快晴。みんなの熱意で，冬の寒空を吹き飛ばしてしまった。



遊びに集まった人達は年齢も様々。川の一角にシートやござを敷いて，その上に思い思いの格好で陣取り，釣り竿・凧・どんぐりごま・竹とんぼ・竹けん玉作りなどにチャレンジする。釣り竿は早くできた。ドンぐりごまは，カラフルにできた。竹とんぼの羽を削りながら，時おり，先生の細工の技に感動をする人たちあり。凧は骨を組み立てるのに糸で縛るのは難しいし，時間がかかる。組み立てたら，和紙を貼って絵も描きたい。予定の時間は，あっという間に過ぎて「谷戸なべ」を食す時間となった。おいしい時間を楽しく過ごして，また，凧作りに急いで取り掛かった。なんとか凧の形となって終了した。後に聞いたところ，子どもたちは家へ帰ってから凧揚げに興じたとのこと。最後まで熱心だった若いお父さんたちの凧もちろん，予定通り出来上がって，空高く舞い上がったことと思っている。どうなるか心配だった遊び道具づくりだったが，ひとまず安堵。何よりもみんな教え合い，ふれあえたことがとても良かった。

「梅田川利用・管理検討プロジェクト」

横浜市河川管理課 水政係長 杉本 信夫

皆さん，「梅田川利用・管理検討プロジェクト」に参加して，一緒に利用や管理について考えてみませんか。

梅田川の改修にあたって，横浜市は，植生や自然石を利用した護岸を採用するなど，河川が本来持っている生物の良好な成育環境に配慮し，あわせて美しい自然景観を保全・創出する「多自然型川づくり」を進めています。

既に整備済みの「三保念珠坂公園と一体となった水辺拠点」や，今回の「梅田川をまるかじり！イベントの会

場となった一本橋下流水辺の広場」，そして今後はワークショップ等で計画案を検討してきた「杉沢上堰周辺」整備が進められるなど，一層魅力ある川づくりを進めていきます。

さらに，新治小学校や新治養護学校などが近接した梅田川は，「水辺の楽校」として，児童をはじめ，地元の子供たちが，河川等のもつ様々な機能を活かし，河川等が身近な遊びの場，教育の場となるよう期待されています。（参加されたい方は事務局までご連絡ください）

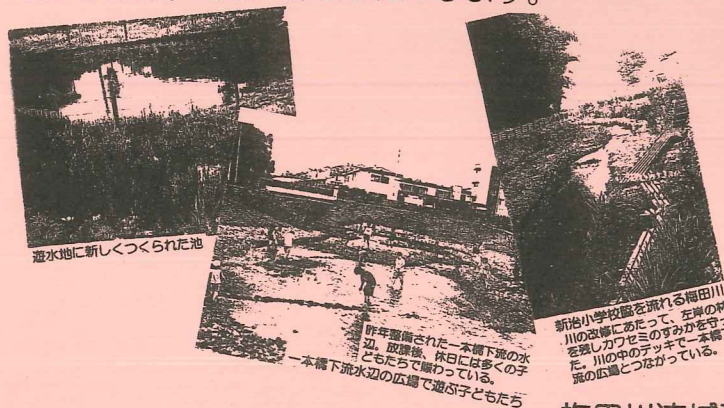
「流域環境マップづくりプロジェクト」って何？

●梅田川流域のわくわくマップをつくりたい

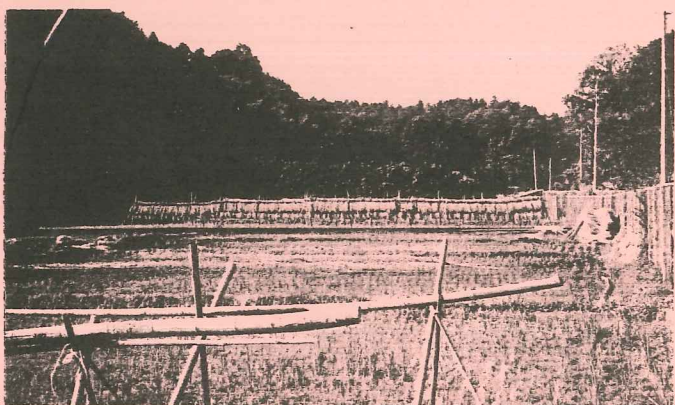
梅田川や流域の自然や歴史、文化などの様々な情報を集めて整理し、協議会のこれからの活動や地域の方々の様々な川にかかわる活動に役立つようなマップをつくることを目的に活動しています。

●こんな活動しています

各参加者や行政が持っている梅田川流域に関連する情報や参考となるマップも持ち寄り、梅田川流域マップの内容や活用のイメージを話し合ってきました。また、梅田川の流域を実際に歩いて現場のナマ情報を集めようと、梅田川と流域の谷戸調査を行いました。既存の資料では得られない驚くような発見や感動に出会いました。その一部をご紹介します。



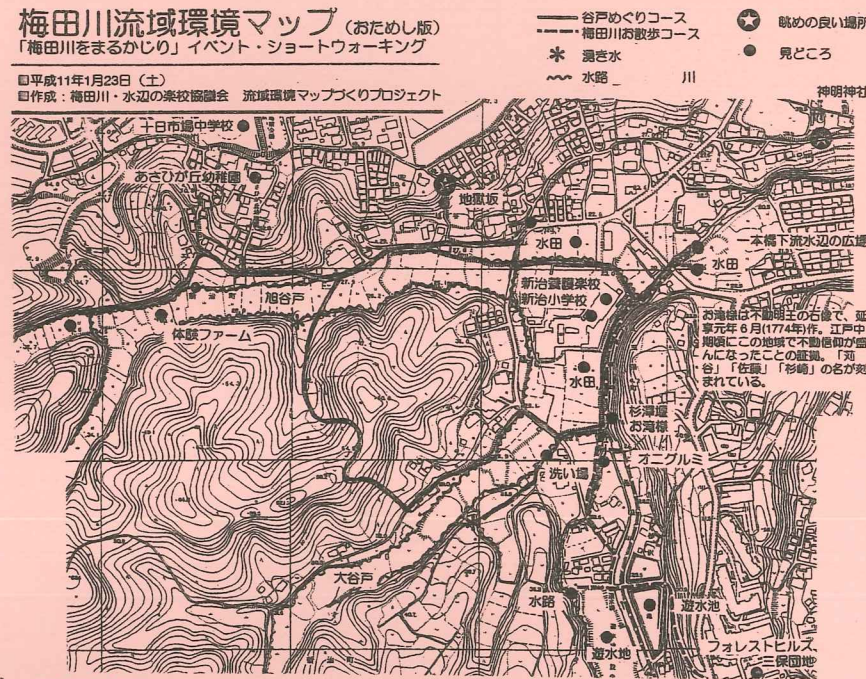
梅田川に流れ込む水路をたどっていくとひっそりとした森の入り口に泉を発見！



最源流の三保市民の森の脇の谷戸・みりりの晩秋風景

●流域マップおためし版を使ってウォーキング！

これからつくるマップは、どんなマップが使いやすく望まれているかを考えるために、これまでメンバーが考えてきたアイデアを、「おためし版マップ」にまとめました。そして、1月23日の「梅田川をまるかじり」イベントで、このマップを使ったウォーキングを企画し、約30人の参加者にアンケートを行いました。



●参加者の意見・感想

今回つくった右の「おためし版マップ」については、「わかりやすかった」、マップに入れた情報量は「ちょうど良い」がほとんどで、おおむね良い評価をいただきました。また、これからつくる最終版のマップのイメージについては、「歩くルートがわかりやすく」「イラストが多く」「四季折々の紹介を」「昔の梅田川の紹介を」など様々な内容が求められていることがわかりました。

●これからのマップづくりに是非ご参加下さい

今後は、このアンケートの結果を踏まえ、いよいよ本格的なマップづくりにとりかかります。関心のある方、是非一緒に、わくわくするような手づくりマップをつくってみませんか。そして、できたてのマップを使って、梅田川の自然を満喫しましょう！

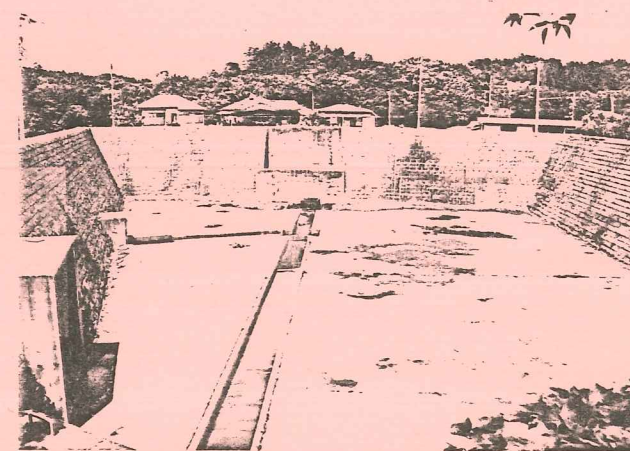
●問い合わせ：近藤まで (045-935-2582)

◆「三保第2団地遊水池」を知っていますか？◆

遊水池は大雨が降ったとき、雨水をためて河川への流出を抑制するものです。今までの遊水池は普段は水がなくコンクリートの箱のようなものでした。が、今「潤いと安らぎもてる水辺空間」へと姿を変えるための工事（併せて、ためる量を3000t増やす）が、三保第2団地（フォレストヒルズ）遊水池で行われています。

底を掘り下げ池を作り、蓮が植えられる予定です。そして遊水池を囲むフェンスが内側に移動、周りに植栽が施されます。

遊水池は立入禁止なので、池の傍まで行くことは出来ませんが、全体を見下ろせる位置にベンチが置かれるそうなので、散歩の途中に寄って見てはいかがでしょうか。



施工前の三保第2団地遊水池
池底はコンクリートで覆われていてやや殺風景な感じです。



施工中の遊水池

池底のコンクリートを取り除き、防水シートの上に土を敷くことで、生物が息できる池と湿地帯を整備するそうです。



取材の様子

左から、中島さん、新井さん、中沢。お話は約1時間に及び、わかりやすく説明していただきました。

- 話し手 横浜市 緑土木事務所 新井 健一さん (担当課長兼下水道係長)
中島 浩幸さん (担当者)
- 聞き手 中沢ひろみ (梅田川・水辺の楽校新聞編集部)

今回から新聞編集部が梅田川に関係する出来事取材していきます。今回は2カ所の取材を行いました。横浜市緑土木事務所に三保第2団地遊水池のこと、横浜市緑政局に「北の森」・「(仮称)新治市民の森」の計画等についておたずねしました。

梅田川流域における最近の市の施策について緑政局におたずねしました。

☆「北の森」・「(仮称)新治市民の森」の計画について

横浜市の総合計画「ゆめはま2010プラン」では、三保・新治、川井・矢指周辺地区の大規模な緑のゾーンを「北の森」と位置づけ、未来に残し育てていく横浜のシンボリックな森として保全活用する計画です。

梅田川流域の三保・新治地区では、周辺にある三保市民の森、県立四季の森公園、よこはま動物園などとの連携や市街地に近接する特性などを生かし、多くの市民が楽しめる場として樹林地や農地の活用を進めています。

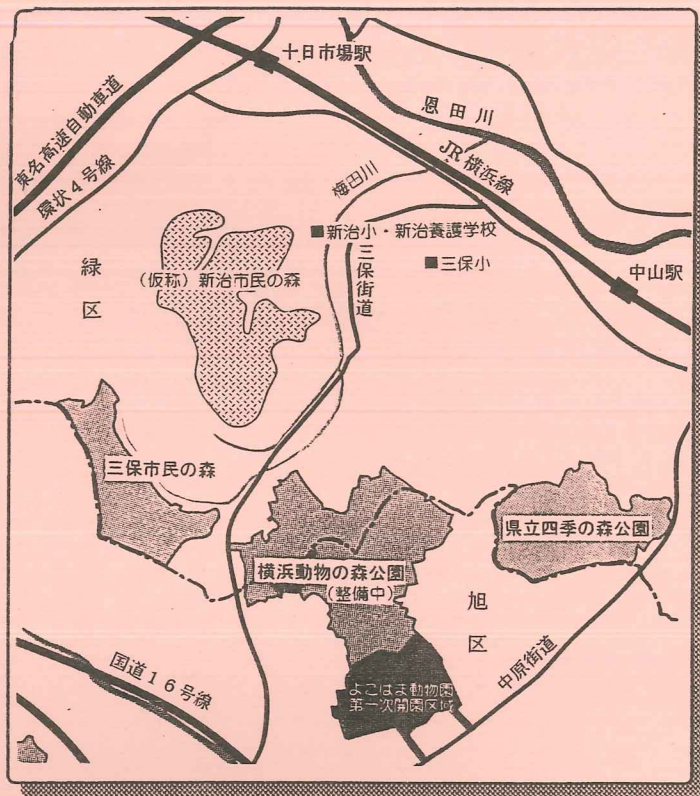
現在、新治町を中心とした樹林地は、「(仮称)新治市民の森」として既に契約した区域(約60ha)について、平成10年度から園路などの整備を行います。

☆「よこはま動物園」とは

よこはま動物園(ズーラシア)は、平成11年4月24日第一次開園(28.9ha)する国内最大級の動物園で、「横浜動物の森公園」(今までは都筑自然公園と呼んでいました)の中にあります。横浜動物の森公園は、旭区と緑区にまたがる面積約103haの広域公園で、動物園や植物園を含む市内最大の公園として整備を進めています。

市民の森

市民の森とは、民有緑地の保存と市民の憩いの場を提供するため、横浜市が独自に設けた制度です。主として樹林に覆われた概ね5ha以上の土地で、市民の憩いの場として利用可能な区域を市が土地所有者の方と土地使用契約を結びます。自然の景観を壊さないよう散策路など最小限の施設を整備し、ハイキングや自然観察などに利用できる森づくりを行います。



たんけん
梅田川自然観察MAP
はっけん
作ろうと思ってる

～読者のお便りから～

「梅田川ってどこ?梅田橋のところ?」
「違うよ、新治だよ」

私は去年の10月に横須賀から転入してきました。梅田という名前からは陸運事務所のそばの梅田橋(編集部注:港北産業道路緑区池辺町の交差点です)が連想されました。でもこの水辺の楽校新聞を読んで9月に新居探しに来た時に見たあの小川が梅田川なんだと納得しました。なんだか昔住んでいたところに似てとてもつかしい、心安らぐ小川だったように思います(北側十日市場よりの支流を見ました)。

メダカはいるのかな?ホトケドジョウは?ホタルが出るならサワガニも?ミスカマキリやタイコウチも流域の水環境にいますのかな?コオイムシは

…なんて頭の中が大洪水です。その反面家庭排水は?農薬の流入は?今後の開発計画は?と心配事もいっぱい休日を利用して自分の目で確かめようと思います。

私が住んでいた野比(のび)にはトウキョウサンショウウオ、サワガニ、カワニナ、ゲンジボタル、ヘイケボタルがいました。三浦まで行けば三浦メダカも健在です。新治の谷戸も貴重な自然環境が残っているようで21世紀を担う私たちの子孫にそのまま、いやよりよい状態にして送り届けたいですね、次号を期待しています。(第1号を緑図書館にて拝見しました、十日市場町 三原信二)

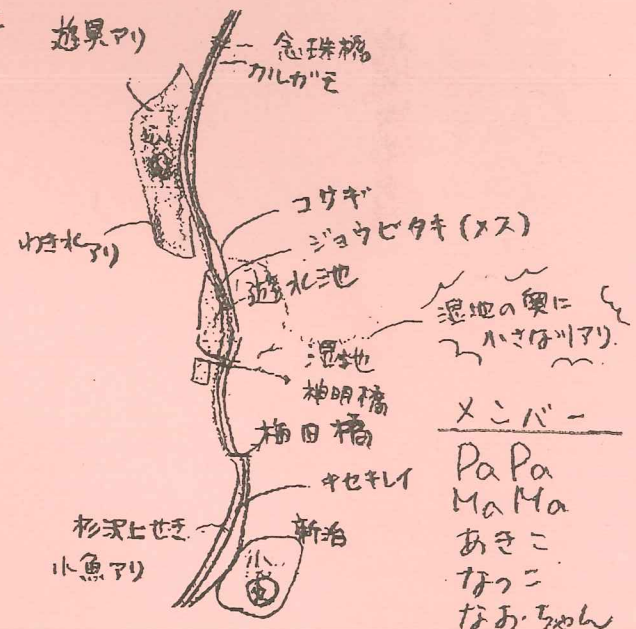
三原さんが送ってくださった探検マップです。編集部ではみなさんの知っている梅田川のこと気になること等のお便りを募集しています。

2月17日(水) ぽれ 気温 14℃
自宅 13:40 発

三保急珠坂公園 14:40 着

「今日のかんさつの感想 梅田川」
横すずの野比川よりきれいでした。でも草むらには、犬のふんやねこのふんがたくさんありました。かいぬしはスゴクてんちをもちたいかなと思いました。おぼろげに公園でアメンボをこどもとりにかかっていた。かんさつは楽しかったです。こんどは、ほろりのほうへいってかんさつしたいです。これかるとしたいことは、うめ田川にはびんないき生物がいなかるべたりつかまったりかんさつしたいです。

茶津子 十日市場 43



●梅田川で観察できる魚

梅田川とその周辺にある水路や遊水池では、大体10種類程度の魚が住んでいます。これらの魚の多くは一生を谷戸や梅田川で過ごす「準淡水魚」と呼ばれる魚です。

